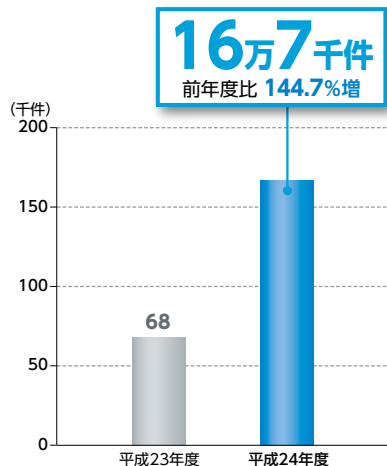


# 平成24年度業績ハイライト

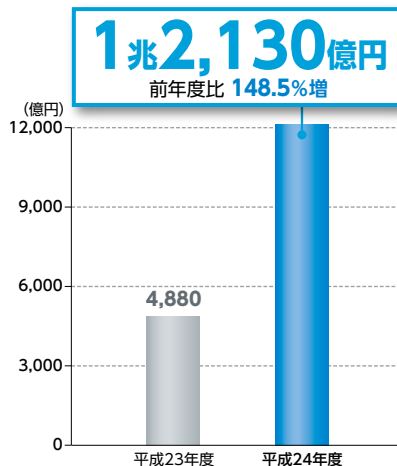
## 新契約について

平成24年度は初期死亡保険金抑制型一時払終身保険の販売が好調であったことなどから、個人保険および個人年金保険合計の新契約件数は16万7千件、新契約高は1兆2,130億円、新契約年換算保険料は698億円となりました。

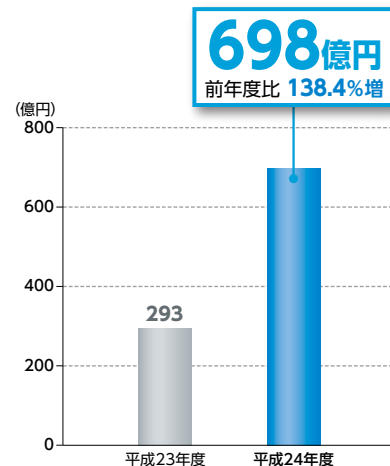
### 新契約件数



### 新契約高



### 新契約年換算保険料



「新契約件数」は、新たにご契約いただいた保険契約の件数です。

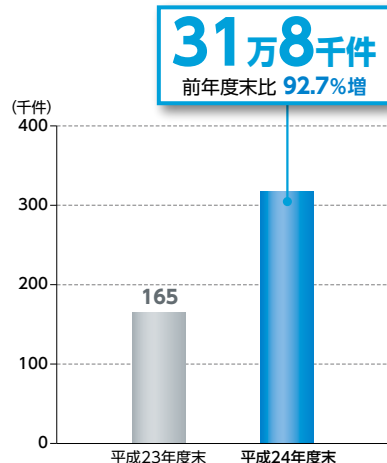
「新契約高」は、新たにご契約いただいた保険契約の保障金額の総計額です。

「新契約年換算保険料」は、新契約について月払・年払・一時払等払込方法の違いを調整し、総払込保険料を保険期間で按分して、1年あたりの保険料に換算した金額です。

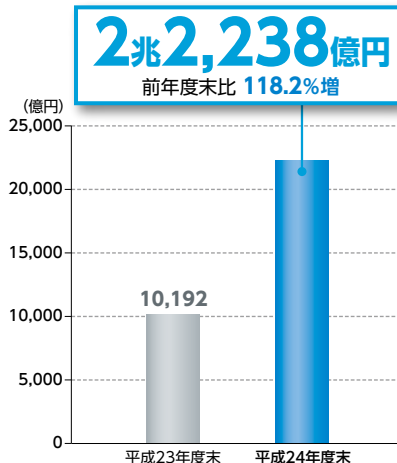
## 保有契約について

契約販売の伸展に伴い、個人保険および個人年金保険合計の保有契約件数は31万8千件、保有契約高は2兆2,238億円、保有契約年換算保険料は1,190億円となりました。

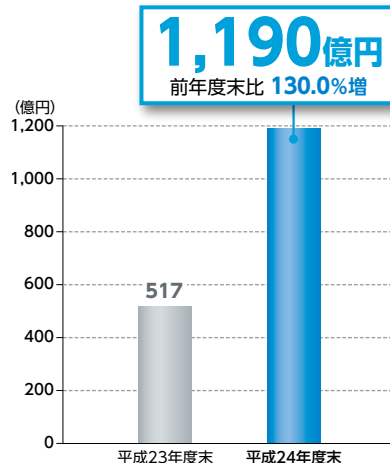
### 保有契約件数



### 保有契約高



### 保有契約年換算保険料



「保有契約件数」は、ご契約いただいている保険契約の件数です。

「保有契約高」は、個々のお客さまに対して生命保険会社が保障する金額の総計額を表します。

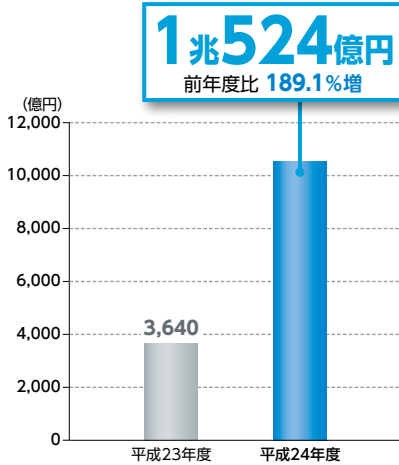
「保有契約年換算保険料」は、保有契約について月払・年払・一時払等払込方法の違いを調整し、総払込保険料を保険期間で按分して、1年あたりの保険料に換算した金額です。



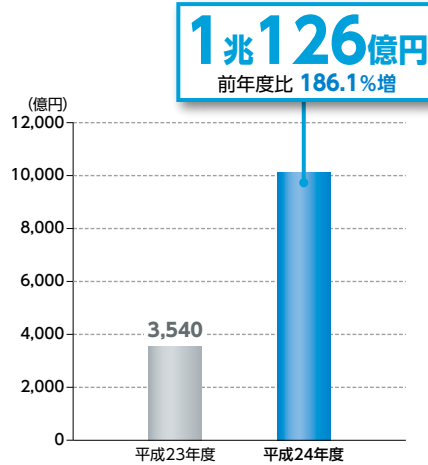
## 保険料等収入、保険金等支払金

好調な新契約業績の伸展に伴い、保険料等収入は1兆524億円となり、その内訳は、保険料収入が9,628億円、再保険収入が895億円となりました。保険金等支払金は1兆126億円となり、そのうち再保険料が9,580億円となりました。当社は、再保険契約に基づき、一般勘定の新契約のすべてを出再しています。

### 保険料等収入



### 保険金等支払金



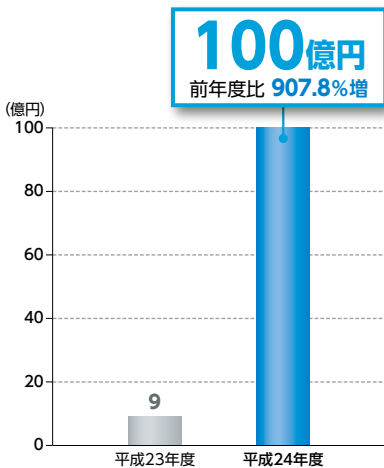
「保険料等収入」は、お客さまからお払込みいただいた保険料による収益です。

「保険金等支払金」は、保険金、年金、給付金、解約返戻金およびその他返戻金等、お客さまに保険契約上お支払いさせていただいた金額を示すものです。

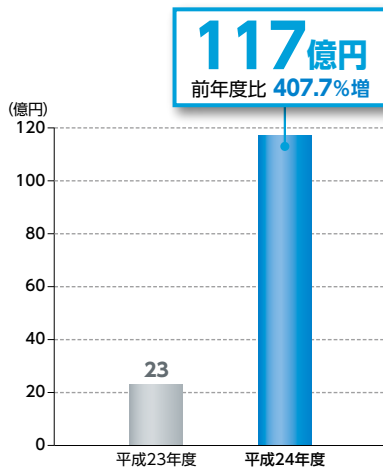
## 基礎利益、経常利益、当期純利益

基礎利益は、保険料等収入が増加したことなどから、100億円となりました。また、経常利益は117億円、当期純利益は106億円となりました。

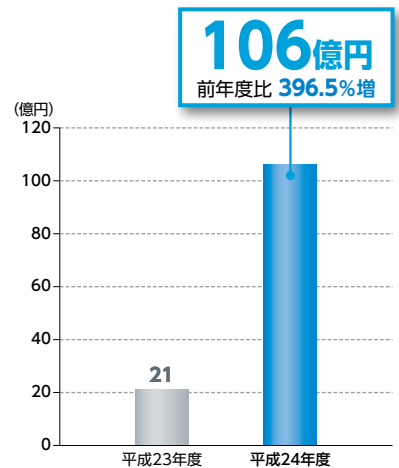
### 基礎利益



### 経常利益



### 当期純利益



「基礎利益」は、生命保険会社の本業における1年間の収益力を示す指標のひとつで、一般事業会社の営業利益や銀行の業務純益に近いものです。

「経常利益」は、経常収益と経常費用の差額です。経常収益の主なものは保険料等収入、資産運用収益等です。経常費用は保険金等の支払い、資産運用費用、事業費等です。

「当期純利益」は、税引き後の最終利益です。

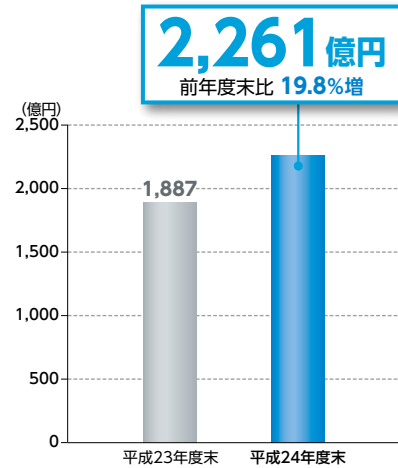
平成24年度業績ハイライト

## 総資産

総資産は、財務基盤強化を目的として、平成24年6月に実施した100億円の増資および同年12月に実施した250億円の資金調達が主な要因により、2,261億円となりました。

「総資産」は現金および預貯金、有価証券等の運用資産と未収金等の非運用資産の合計で、企業の事業規模を示す財務指標のひとつです。

### 総資産



## 逆ざや

逆ざやはありません。

生命保険会社は、ご契約者にお支払いいただいた保険料の一部を将来の保険金等のお支払いに備えて責任準備金として積み立てていますが、この責任準備金は、一定の利率により毎年運用されることを前提としています。この利率のことを「予定利率（責任準備金計算用）」といいますが、「逆ざや」とは、運用環境の悪化などにより、一部の契約で実際の運用利回りが予定利率を下回っている状態のことをいいます。

## 格付け

当社は、第三者である格付機関に依頼して客観的評価を取得しています。スタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社（S&P）による保険財務力格付けは「AA-」、株式会社格付投資情報センター（R&I）による保険金支払能力格付けは「AA-」となっています。

S&P 保険財務力格付け  
**AA-**  
(平成25年6月末現在)

R&I 保険金支払能力格付け  
**AA-**  
(平成25年6月末現在)

※格付けは格付機関の意見であり、また一定時点での数値、情報等に基づいたものであるため、将来的に変更される場合があります。

保険財務力格付けは、保険会社全体を評価しているものではなく、また将来の保険金支払いなどについて保証しているものではありません。

上記格付けに付されているプラス記号またはマイナス記号は各カテゴリーの中での相対的な強さを表しています。



## ソルベンシー・マージン比率

財務の健全性を示す指標のひとつであるソルベンシー・マージン比率は前年度末から136.0ポイント増加し、892.2%となりました。

### ソルベンシー・マージン比率

# 892.2%

平成23年度末

# 756.2%

「ソルベンシー・マージン比率」は、環境の変化などにより通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標のひとつです。200%を下回った場合には監督官庁による業務改善命令の対象となります。

### ソルベンシー・マージン比率の算出式

ソルベンシー・マージン比率は次の算式により、算出されます。

$$\text{ソルベンシー・マージン比率 (\%)} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{\text{リスクの合計額} \times 1/2} \times 100$$

○ソルベンシー・マージン総額 [= 下記の合計額]

資本金等、価格変動準備金、危険準備金、一般貸倒引当金、その他有価証券の評価差額×90%\*、土地の含み損益×85%\*、全期チルメル式責任準備金相当額超過額、負債性資本調達手段等、全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうちマージンに算入されない額、持込資本金等、控除項目、その他

\* マイナスの場合100%

○リスクの合計額 [=  $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ ]

保険リスク、予定利率リスク、資産運用リスク、経営管理リスクなど通常予想できる範囲を超える諸リスクを数値化して算出します。

保険リスク相当額 (R <sub>1</sub> )	大災害の発生等により、保険金等の支払いが急増するリスク相当額
第三分野保険の保険リスク相当額 (R <sub>8</sub> )	医療保険やがん保険等の入院給付金等の支払いが急増するリスク相当額
予定利率リスク相当額 (R <sub>2</sub> )	運用環境の悪化により、資産運用利回りが予定利率を下回るリスク相当額
資産運用リスク相当額 (R <sub>3</sub> )	株価暴落・為替相場の激変等により資産価値が大幅に下落するリスク、および貸付先企業の倒産等により貸倒れが急増するリスク相当額
最低保証リスク相当額 (R <sub>7</sub> )	変額保険、変額年金保険の保険金等の最低保証に関するリスク相当額
経営管理リスク相当額 (R <sub>4</sub> )	業務の運営上通常の予想を超えて発生し得るリスク相当額